

武士の暮らしと鎌倉文化

名前 _____

_____ 月 _____ 日

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

鎌倉時代の人々はどのように暮らし、どんな文化や仏教が生まれたのだろう。

下線に当てはまる語句を書こう。同じ番号には同じ語句が入る。左の欄の説明もヒントにしよう。

1 武士の暮らしと農業の発展

武士と暮らし

1 武士の一族が領地を分けて相続するしくみ。女性も相続した。

武士は、ふだんは領地の館に住んで一族や従者と暮らし、弓馬の武芸にはげんで戦いに備えていた。領地は、女性もふくめて一族で分けて受け継ぐ 1 分割相続 が行われた。地頭になった武士は、荘園や公領の支配をしだいに強めていった。

2 同じ田畑で米と麦などを交代でつくる農法。

このころ、西日本を中心に、同じ田畑で米と麦などを交代でつくる 2 二毛作 が広まり、牛や馬を使った耕作や鉄製の農具も使われて、農業の生産力が高まった。寺社の門前などでは、月に

3 寺社の門前や交通の便利な所で月に数回開かれた市。

数回開かれる 3 定期市 が立ち、人々は宋から輸入された銅銭(4 宋銭)を使って品物を売り買いした。

4 宋から輸入された銅銭。定期市などの売り買いに使われた。

2 鎌倉文化と新しい仏教

文化と仏教

22 うんけい かいけい
運慶・快慶
東大寺南大門の金剛力士像をつくった仏師。

武士の気風に合った力強い文化が生まれた。東大寺南大門には、運慶・快慶らがつくった

6 源平の戦いをえがいた軍記物語。琵琶法師が語り広めた。

5 こんごうりきしぞう
金剛力士像 が置かれた。源平の戦いをえがいた軍記物語の 6 へいけものぶ
平家物語 は、7 びわほうし
琵琶法師 によって各地に語り広められた。随筆では鴨長明の 8 かものちようめい
方丈記、兼好法師の 9 じてんそう
徒然草 が書かれた。

9 兼好法師が書いた随筆。

武士や民衆の間には、わかりやすく信仰しやすい新しい仏教が広まった(下の表)。念仏や題目を唱えたり、座禅を組んだりする教えで、宋から伝わった禅宗は、武士の気風に合って幕府にも重んじられた。

教え	宗派(開いた人)
念仏を唱える	<u>10 じょうとしゅう</u> <u>浄土宗</u> (<u>11 ほうねん</u> <u>法然</u>)・ <u>12 じょうとしんしゅう</u> <u>浄土真宗</u> (<u>13 しんらん</u> <u>親鸞</u>)・ <u>14 じしゅう</u> <u>時宗</u> (<u>15 いっぺん</u> <u>一遍</u>) 踊念仏
題目を唱える	<u>16 にちれんしゅう</u> <u>日蓮宗</u> (<u>17 にちれん</u> <u>日蓮</u>)
座禅で悟りを開く 禅宗	<u>18 りんざいしゅう</u> <u>臨済宗</u> (<u>19 えいさい</u> <u>栄西</u>)・ <u>20 そうどうしゅう</u> <u>曹洞宗</u> (<u>21 どうげん</u> <u>道元</u>)

できた / 22